

岡山県感染症週報 2023年第26週 (6月26日～7月2日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

◆2023年 第26週 (6/26～7/2) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第25週	4類感染症	レジオネラ症 1名 (80代 女)
	5類感染症	梅毒 2名 (20代 男 1名、50代 男 1名)
第26週	2類感染症	結核 4名 (20代 女 1名、50代 男 1名、70代 男 1名、90代 女 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 7名 (O157:小学生 男 1名、20代 男 1名・女 2名、30代 男 1名、O血清群不明:小学生 男 1名、20代 女 1名)
	4類感染症	日本紅斑熱 1名 (60代 女)
	5類感染症	アメーバ赤痢 1名 (30代 男)
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1名 (80代 男)
		侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (70代 男)
		梅毒 4名 (20代 女 1名、40代 男 1名、50代 男 2名)

食中毒予防の3原則
「清潔」・「迅速・冷却」・「加熱」



©岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数: インフルエンザ/COVID-19 定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で 430 名 (定点あたり 5.12 人) の報告がありました。

【第27週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 2名 (O157: 30代 男 1名・女 1名) の発生がありました。

1. [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で 430 名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 3.68 → 5.12 人)。詳しくは「[★新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ「[『新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報』](#)」をご覧ください。
2. [腸管出血性大腸菌感染症](#) は、2023 年第 26 週に 7 名の報告があり、2023 年の累計報告数は 30 名となりました (2022 年の同時期: 15 名)。岡山県は 6 月 23 日に「[『腸管出血性大腸菌感染症注意報』](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[『腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中!』](#)」をご覧ください。
3. [日本紅斑熱](#) は、2023 年第 26 週に 1 名の報告があり、2023 年の累計報告数は 2 名となりました (2022 年の同時期: 2 名)。ダニが媒介する感染症として、他に[重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#) や[つつが虫病](#) などがあり、2023 年は第 26 週までに SFTS が 3 名、つつが虫病が 1 名の報告がありました。これらは、病原体を保有するマダニまたはつつがムシに刺咬されることで感染します。また、SFTS に関してはイヌやネコからの感染も報告されています。ダニに刺咬されないための予防対策等については[コラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう!」](#)をご覧ください。
4. [梅毒](#) は、2023 年第 26 週に 4 名の報告があり、2023 年の累計報告数は 132 名となりました (2022 年の同時期: 81 名)。2022 年の年間報告数は県内で 197 名、全国で 13,226 名 (2023 年 3 月 18 日時点) であり、1999 年の感染症法施行以降で最多でした。特に全国の年間報告数は従前の最多数を大幅に超えました。2023 年の全国の発生状況は、第 25 週までの累計報告数が 7,124 名 (2023 年 6 月 28 日時点) であり、最多であった 2022 年の同時期: 5,525 名を上回っています。今年も全国、県内共に、前年をさらに上回る勢いで報告があり、注意が必要です。また、先天梅毒の 2023 年の全国の発生状況は、第 25 週までの累計報告数が 19 名となり、近年の年間報告数 20 名前後に既に並びました。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[『梅毒について』](#)」をご覧ください。
5. [RS ウイルス感染症](#) は、県全体で 100 名の報告があり、前週から減少しました (定点あたり 2.59 → 1.85 人)。しかし、過去 10 年間の同時期と比較して、最も多かった 2021 年と同じような傾向で多い状況です。全国でも第 19 週以降増加傾向が継続しています。この感染症は、大人は軽い風邪程度の症状で軽快しますが、乳幼児が感染すると重症化のおそれがあります。有効なワクチンはなく、症状に応じた対症療法が行われます。病気の特徴、予防法は次をご覧ください。

→ 『RSウイルス感染症とは』（国立感染症研究所）、『RSウイルス感染症 Q&A』（一般向け）（厚生労働省）

6. **ヘルパンギーナ**は、県全体で234名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり4.24 → 4.33人）。地域別では、備北地域（6.75人）、美作地域（6.67人）、岡山市（6.07人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、これら3地域では**発生レベル3**となっています。全国でも第19週以降増加が継続しており、過去5年間の同時期と比較してかなり多くなっています。この感染症は、夏かぜの一種であり、例年7～8月頃が流行のピークとなります。特異的な治療法はなく、症状に応じた対症療法が行われます。病気の特徴、予防法は次をご覧ください。

→ 『ヘルパンギーナとは』（国立感染症研究所）、『わかりやすい感染症Q & A』（一般向け）（厚生労働省）

流行の推移と発生状況（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は別掲載）

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★	RSウイルス感染症	▲	★★★
咽頭結膜熱	▶	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	★
感染性胃腸炎	▶	★★	水痘	▲	★
手足口病	▶	★	伝染性紅斑	▶	
突発性発疹	▶	★	ヘルパンギーナ	▶	★★★★
流行性耳下腺炎	▶	★	急性出血性結膜炎	▶	
流行性角結膜炎	▶	★	細菌性髄膜炎	▶	
無菌性髄膜炎	▲	★	マイコプラズマ肺炎	▶	
クラミジア肺炎	▶		感染性胃腸炎（ロタウイルス）	▶	

【記号の説明】 前週からの推移： ▲：大幅な増加 増加 ▲：増加 ▶：ほぼ増減なし ▲：減少 ▼：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減
 発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中です！

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう（腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します）。



0157の電子顕微鏡画像
（国立感染症研究所）

[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

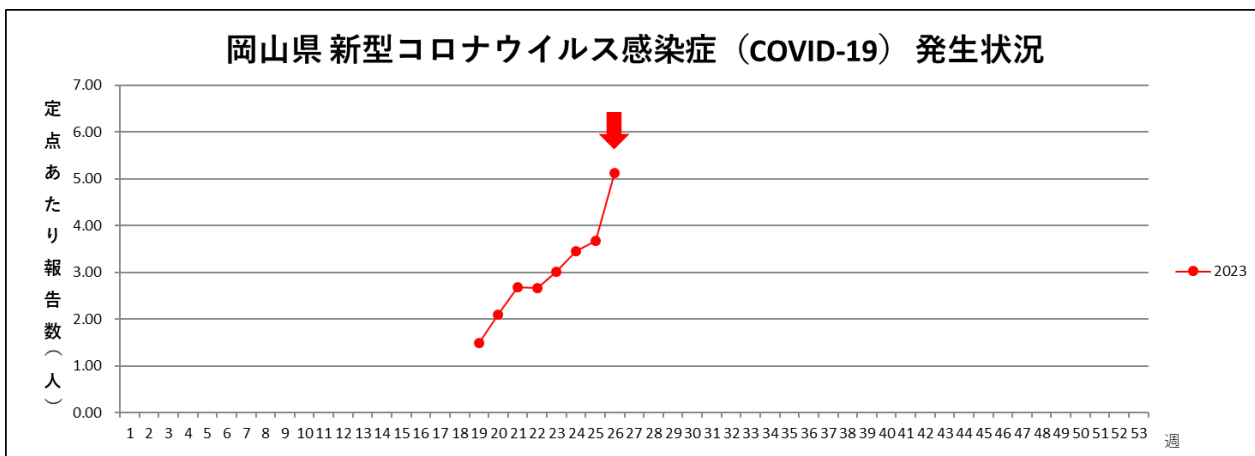
[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省作成チラシ）](#)

☆新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報

岡山県の流行状況（2023年第26週（6/26～7/2））

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で430名（定点あたり5.12人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。



※ 2023年は定点把握対象へ移行した第19週から表示しています。

※ 全数把握時のデータは[こちら](#)

※ 2022年10月3日（2022年第40週）～2023年5月7日（2023年第18週）までの全数把握の患者数をもとに、2023年5月8日以降の定点医療機関からの報告患者数を抽出して集計した患者数の推移（参考値）はこちらをご覧ください。→ [全国](#)（厚生労働省HP）、[岡山県](#)（新型コロナウイルス感染症対策室HP）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で430名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり3.68→5.12人）。地域別では、倉敷市（8.38人）、備中地域（7.83人）、備北地域（6.83人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年代別では、10歳未満以外の年代で前週から増加しました。

今後の全国の流行状況の見通しとして、過去の状況等をもとに、患者数の増加傾向が継続し、夏の間には一定の感染拡大が生じる可能性が指摘されています。

基本的な感染防止策（効果的な場面でのマスク着用、手洗い等の手指衛生、換気、3密（密閉・密集・密接）の回避、健康的な日常生活、ワクチン接種、体調不良時の備え）に留意し、自主的な判断により実施しましょう。

◆ゲノム解析の結果（全国の情報（岡山県の情報も含む））は[こちら](#)

[『SARS-CoV-2 変異株について』](#)（国立感染症研究所）

●新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とは

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空気中に留まりうることから、換気が不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。

●症状

日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と短く、また、発症前からウイルスを排出し、感染源となることが分かっています。上気道で増殖しやすい特性から、従来株（デルタ株等）に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（21週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっていますが、ワクチン接種が重症化を予防する可能性があると考えられています（[日本におけるCOVID-19妊婦の現状](#)（日本産科婦人科学会、2022年6月7日付報告））。

なお、罹患後症状（いわゆる後遺症）については、以下をご覧ください。

- ・[罹患後症状のマネジメント・第2.0版（2022年10月14日発行）](#)
- ・[『新型コロナウイルス感染症罹患後も続く症状（後遺症）にお悩みの方へ』](#)（岡山県ホームページ）

●発生動向の把握方法について

これまでは全ての患者を把握する『全数』把握（2022年9月26日以降は簡略化）の方法でしたが、2023年5月8日（第19週）以降は、指定した医療機関（岡山県の定点医療機関数：84（内訳：小児科定点54、内科定点30））において1週間に診断した患者数を把握する『定点』把握の方法へ変更となりました。

基本的な感染症対策！
ワクチン接種も大切！

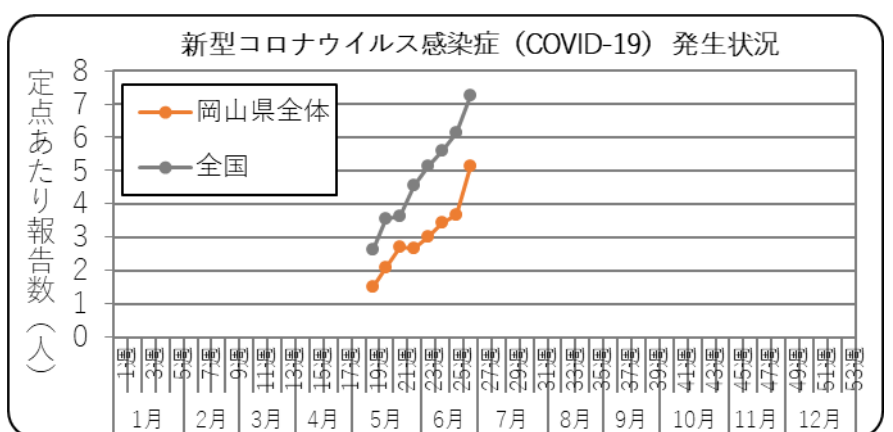
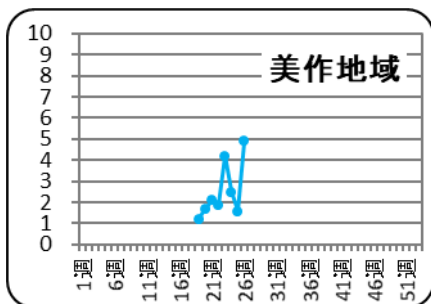
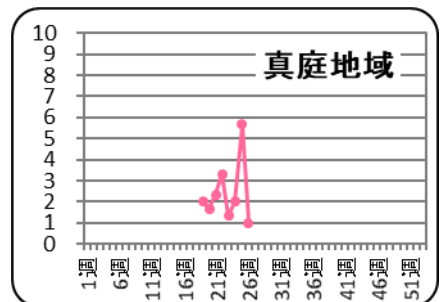
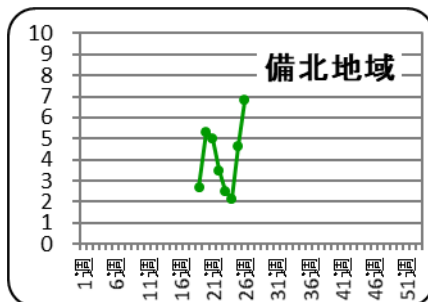
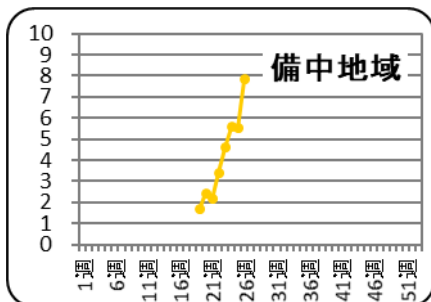
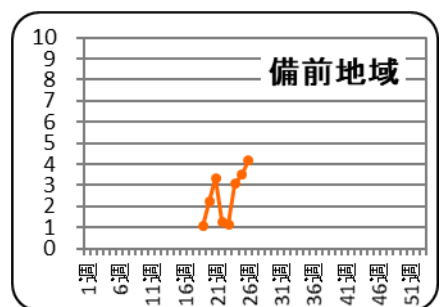
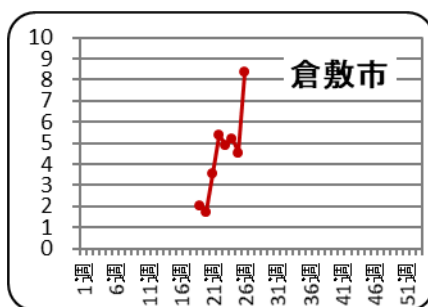
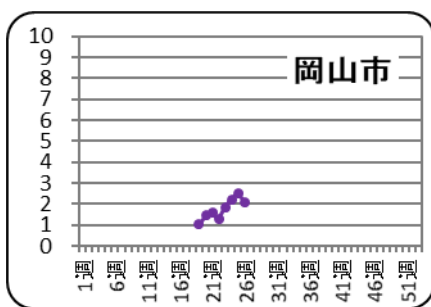


© 岡山県「ももっち」

1. 地域別発生状況

地域名	発生状況 (人)		推移	地域名	発生状況 (人)		推移
岡山県全体	患者数	430	↑	備 中	患者数	94	↑
	定点あたり	5.12			定点あたり	7.83	
岡山市	患者数	46	↑	備 北	患者数	41	↑
	定点あたり	2.09			定点あたり	6.83	
倉敷市	患者数	134	↑	真 庭	患者数	3	↑
	定点あたり	8.38			定点あたり	1.00	
備 前	患者数	63	↑	美 作	患者数	49	↑
	定点あたり	4.20			定点あたり	4.90	

【記号の説明】 前週からの推移 ↑ : 大幅な増加 ↗ : 増加 → : ほぼ増減なし ↓ : 大幅な減少 ↘ : 減少
 大幅 : 前週比 100%以上の増減 増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減



○全国の発生状況

全国集計 2023 年第 26 週速報値 (2023 年 7 月 5 日時点) によると、全国の定点あたり報告数は 7.24 人となり、前週から増加しました。

[新型コロナウイルス感染症の国内発生状況等について \(厚生労働省\)](#)

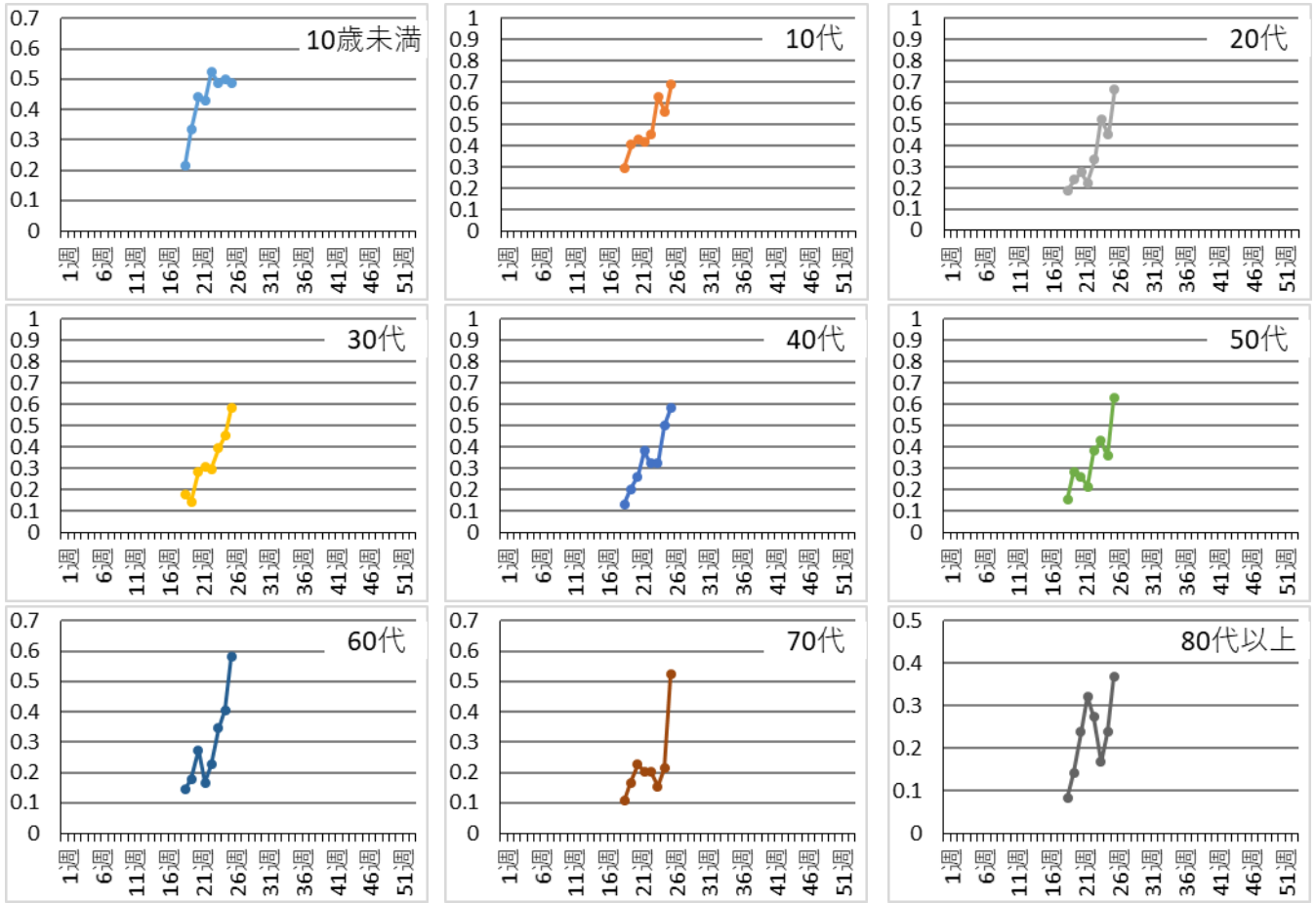
2. 年齢別発生状況

○第26週 (単位:人)

2023年第26週 (6月26日～7月2日) (単位:人)

合計	0-3歳	4-6歳	7-9歳	10-14歳	15-19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
430	19	6	16	31	27	56	49	49	53	49	44	31

○年齢階級別の定点あたり報告数の推移 (2023年第19週～)



📌 留意点: 年齢階級別の報告数の考え方について

定点医療機関は、小児科定点が内科定点に比べて多く選択されているため、報告数は小児に偏ります。一方で、年齢階級別の報告数により、経時的な流行全体の傾向(トレンド)と水準(レベル)の把握および年齢階級ごとにおける流行の傾向と水準を把握することができます。

3. 入院状況

2023年7月5日時点

	全入院者数	確保病床使用率	
			重症者用
	135人	13.1% 74床/ 567床	4.2% 1床/ 24床
(参考) 前週	113人	11.1% 63床/ 567床	4.2% 1床/ 24床
前々週	79人	10.0% 57床/ 568床	8.3% 2床/ 24床

＊子どもの予防接種を確実に！＊



厚生労働省リーフレットより

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。

接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。

予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

[遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診（厚生労働省）](#)
[予防接種スケジュール（国立感染症研究所）](#)

風しんの抗体検査（無料）を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群（CRS）※の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます](#)（岡山県健康推進課）

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています（**2025年3月31日まで**）。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

3年間延長
されます！

岡山県の2019年4月～2023年2月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、33.6%と未だに低い状況です！
CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう！

[風しんの追加的対策について（厚生労働省）](#)
[風疹に関する疫学情報（国立感染症研究所）](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト（日本産婦人科医会）](#)



© 岡山県「ももっち・うらっち」

～ ダニの活動が活発になる時期です ～

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)***、**日本紅斑熱**、**つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(マダニ、ツツガムシの忌避を効果としているもの)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。
体調不良の動物や野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [日本紅斑熱とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [ツツガムシ病とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀

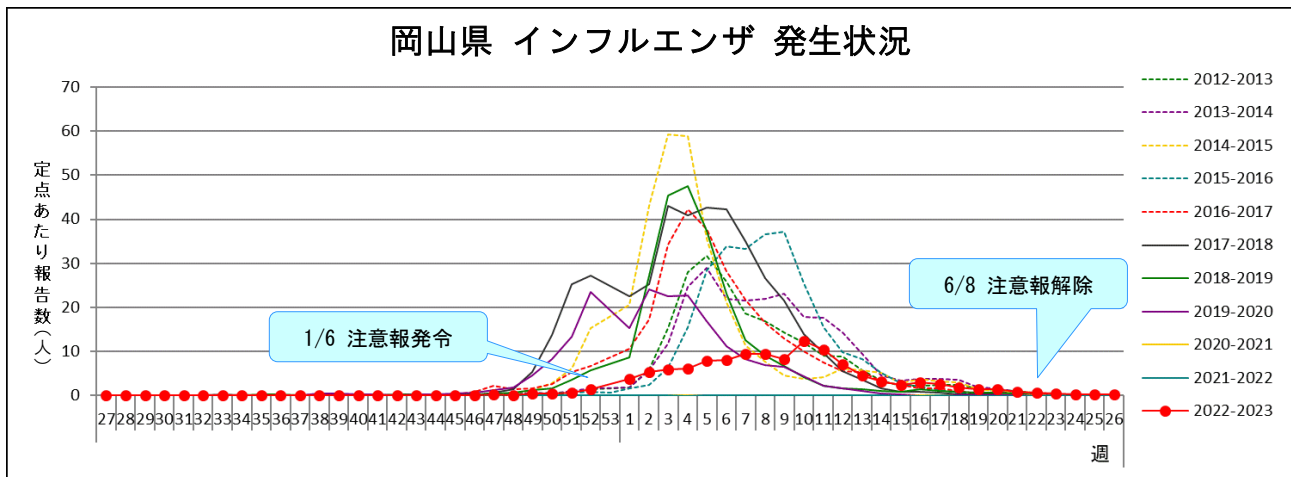


ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 画像

岡山県 インフルエンザ発生状況

(2022/23 年シーズンのまとめ)



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

2022/23 年シーズン(2022/9/5～2023/9/3)のうち、2023 年 7 月 2 日までの岡山県におけるインフルエンザの発生動向をまとめました(県内 84 定点医療機関報告)。

今シーズン、岡山県の患者報告数は、10,065 人であり、注意報発令のなかった 2 シーズン(2020/21 年および 2021/22 年シーズン)後、3 年ぶりに流行をみました。過去 10 シーズンでは 3 番目に少ない報告数でした。

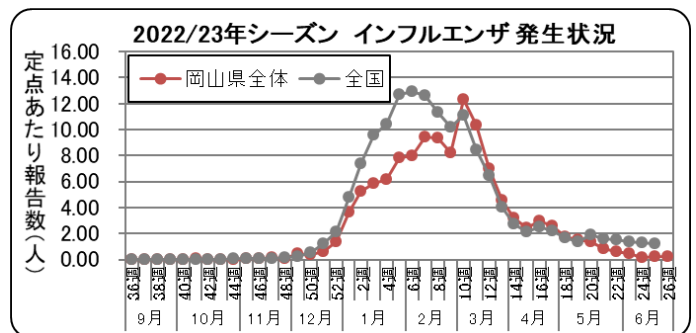
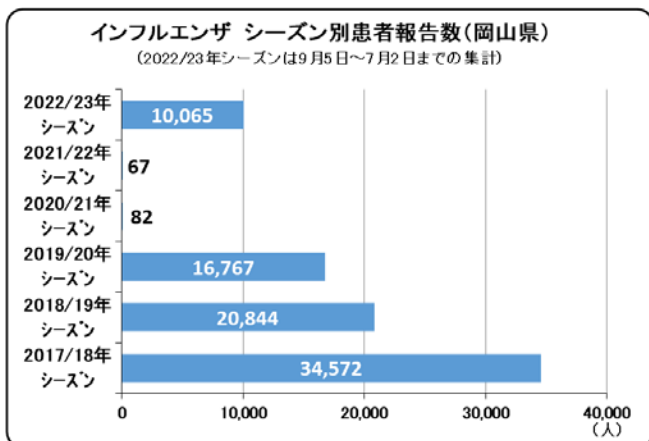
今シーズンは初週の 2022 年第 36 週(9/5～9/11)以降、散発的な患者の発生が継続しました。

第 52 週(12/26～1/1)には定点あたり 1.35 人となり、岡山県の注意報発令基準である定点あたり 1.00 人を上回ったことから、1 月 6 日に「インフルエンザ注意報」を発令しました(2019 年 11 月以来 3 シーズンぶり)。過去 10 シーズンと比較すると、6 番目の早さで流行期に入り、その後、流行が徐々に拡大しました。

最も患者報告数が多かったのは、2023 年第 10 週(3/6～3/12)の 1,037 人(定点あたり 12.35 人)でした。以降、警報発令基準の 30.00 人を超過することなく患者数は減少に転じました。注意報発令シーズンのうち、警報発令に至らなかったのは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行が始まった 2019/20 年シーズン(その前は 2010/11 年シーズン)に続いてとなります。

その後、第 21 週(5/22～5/28)には 0.87 人、第 22 週(5/29～6/4)には 0.57 人と、2 週連続して定点あたり 1.00 人を下回ったため、県内に発令していた「インフルエンザ注意報」を 6 月 8 日をもって解除しました。

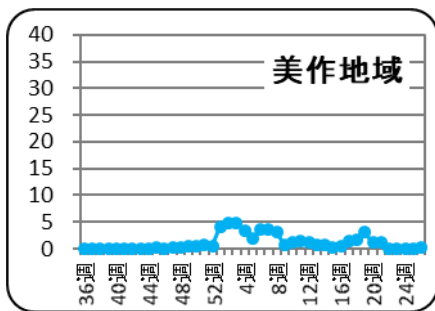
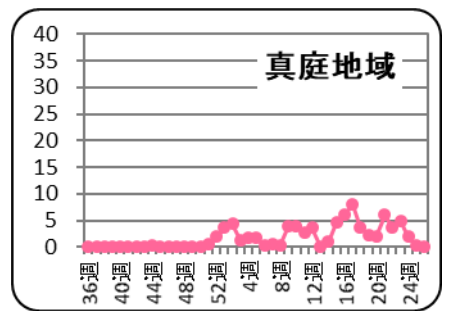
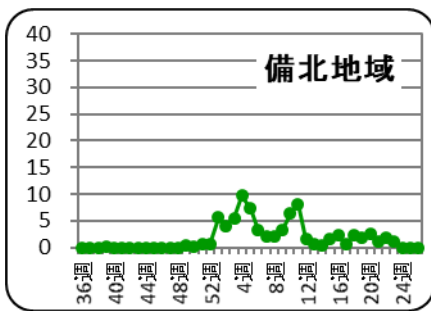
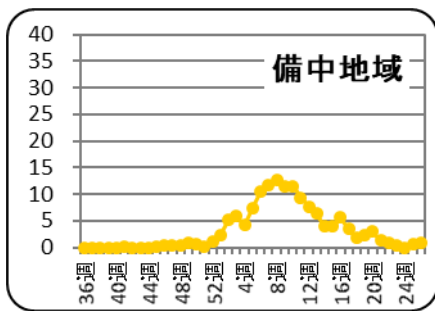
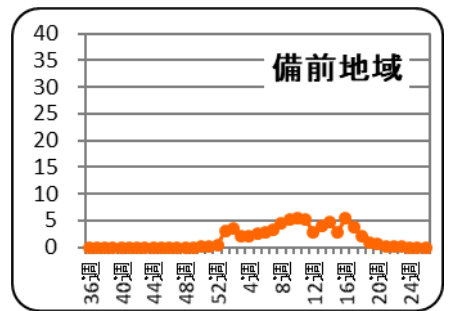
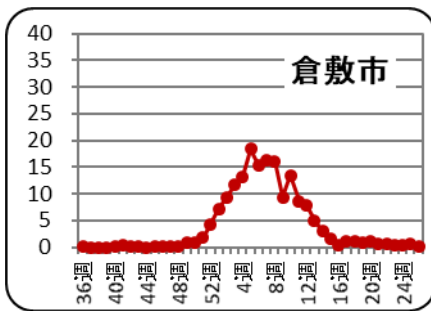
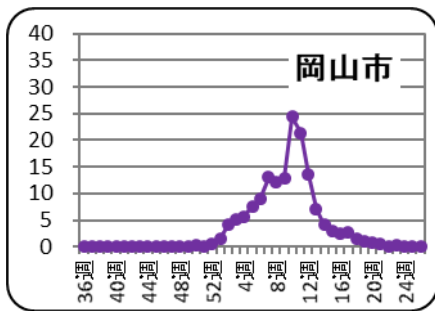
全国では、第 51 週(12/19～12/25)に定点あたり 1.24 人となり、全国的な流行の指標である 1.00 人を上回ったため、流行シーズンに入りました。その後、第 6 週(2/6～2/12)に 12.94 人となり、流行のピークを迎えました。以降、患者数は若干の増減をしながら減少し、第 25 週(6/19～6/25)には定点あたり 1.20 人(2023 年 6 月 28 日現在)まで減少しました。



※インフルエンザシーズンは、第 36 週から翌年第 35 週までを 1 シーズンとして集計しています。

1. 地域別発生状況

地域別で見ると、2022年第36週(9/5～9/11)から散発的に患者が報告され、全県的に流行が拡大していきました。第52週(12/26～1/1)には、流行開始の指標値(定点あたり1.00人)を超え(1.35人)、県内全域で流行期に入りました。その後、患者は増加を続け、各地域のピーク時の定点あたり報告数は、岡山市24.45人(第10週)、倉敷市18.44人(第5週)、備前地域5.53人(第16週)、備中地域12.67人(第8週)、備北地域9.67人(第4週)、真庭地域8.00人(第17週)、美作地域4.90人(第2週および第3週)でした。各地域でピーク時期にばらつきはあったものの、増減を繰り返しながら減少しました。



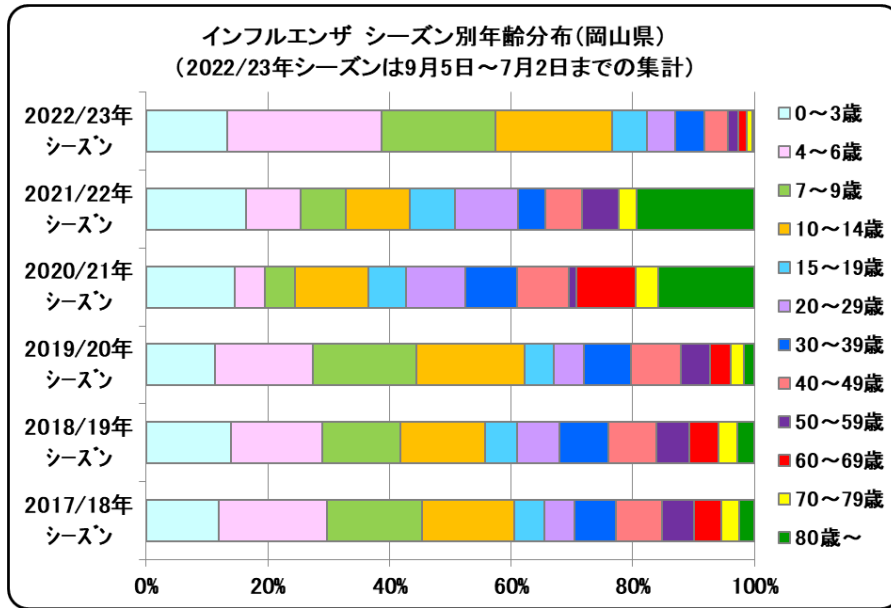
※感染症発生動向調査は、岡山県を7つのブロックに分けて情報収集しています。



- ・岡山市
- ・倉敷市
- ・備前地域(オレンジ)
- ・備中地域(黄)
- ・備北地域(緑)
- ・真庭地域(ピンク)
- ・美作地域(青)

2. 年齢別発生状況

年齢別割合は、4～6歳(25.5%)、10～14歳(19.1%)、7～9歳(18.7%)、0～3歳(13.3%)の順で多くなりました。過去の流行シーズンと比較して、4～6歳の年齢層の割合が増加しました。



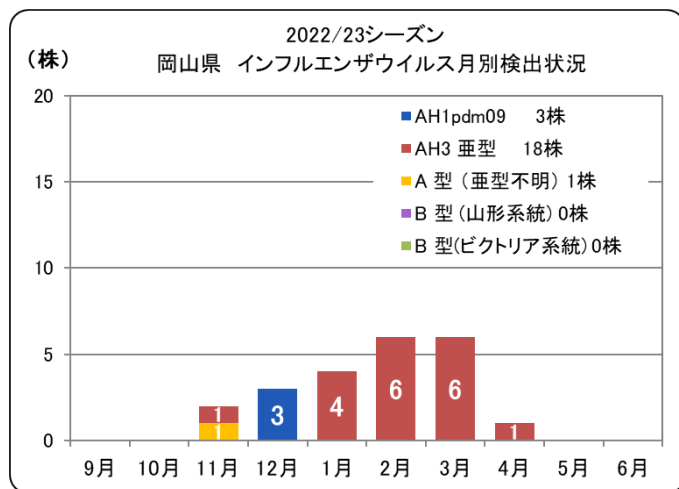
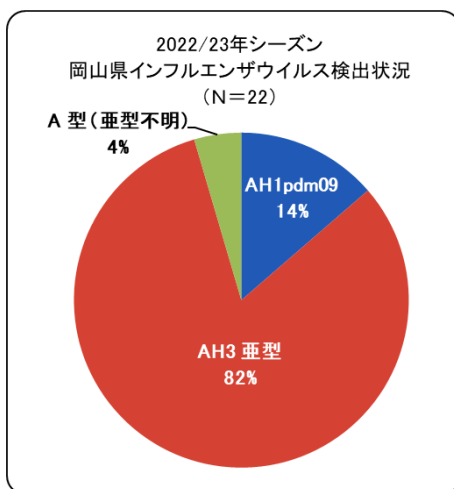
3. インフルエンザウイルス検出状況

今シーズンのうち、2023年7月2日までに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルス22株の内訳は、AH3亜型が18株(82%)で最も多く、次いでAH1pdm09が3株(14%)、A型(亜型不明)が1株(4%)でした。今シーズンは、AH3亜型が主流でした。

月別検出状況は、11月から検出されはじめ、1月からはAH3亜型のみ検出が見られました。なお、12月のAH1pdm09の検出3株は同一の集団感染事例における検体です。

全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、AH3亜型 2,722株(93.7%)、AH1pdm09 75株(2.6%)、B型 73株[ビクトリア系統 71株、山形系統 0株、系統不明 2株](2.5%)、C型 26株(0.9%)、A型亜型不明 9株(0.3%)の順でした。今シーズンは、AH3亜型がシーズンを通して主流となりました(2023年7月4日現在)。

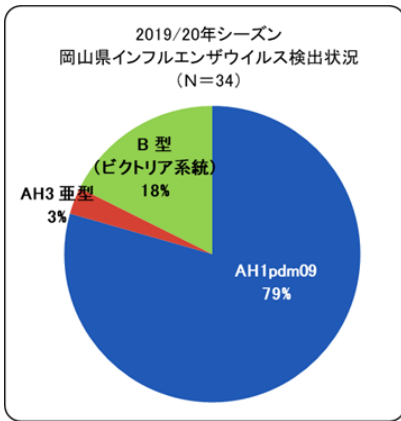
【2022/23年シーズン】



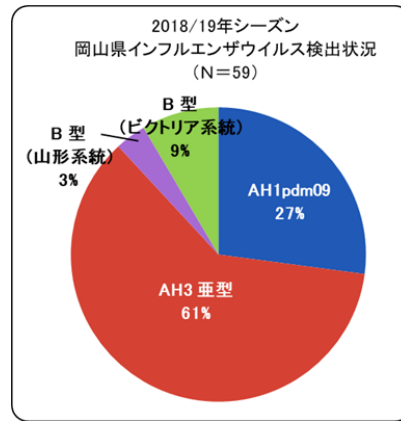
【2021/22年シーズンおよび2020/21年シーズン】

岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。

【2019/20年シーズン】

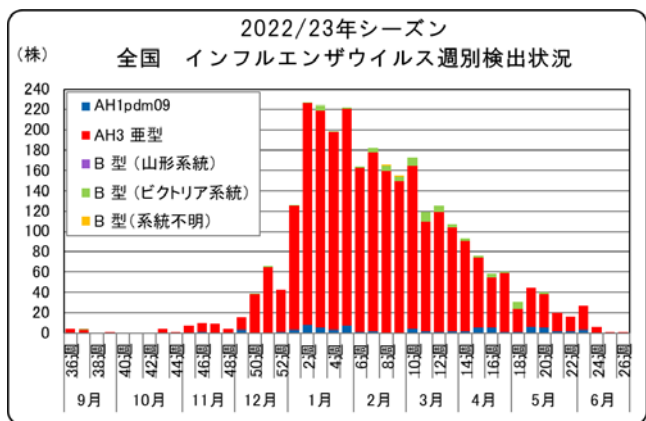
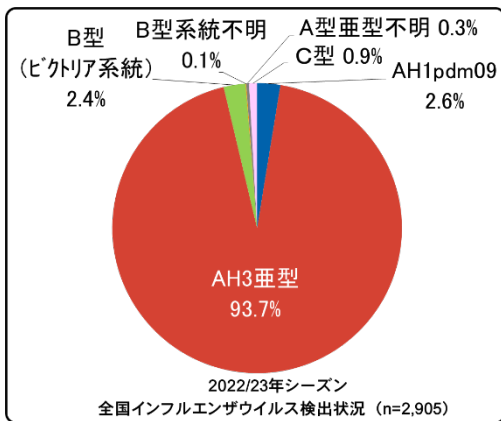


【2018/19年シーズン】

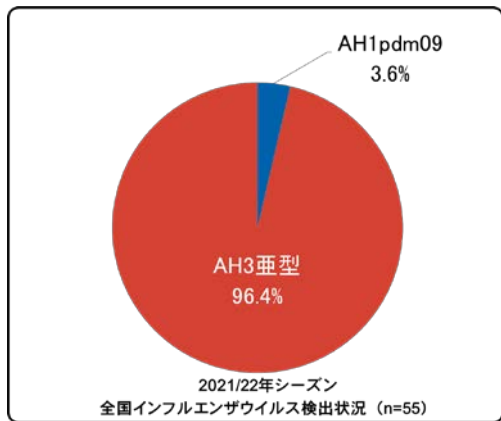


<全国のインフルエンザウイルス検出状況>

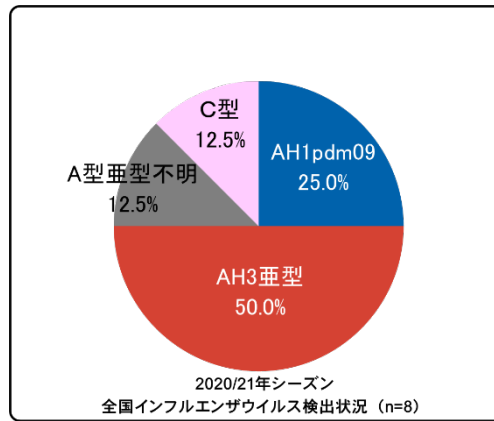
【2022/23年シーズン】



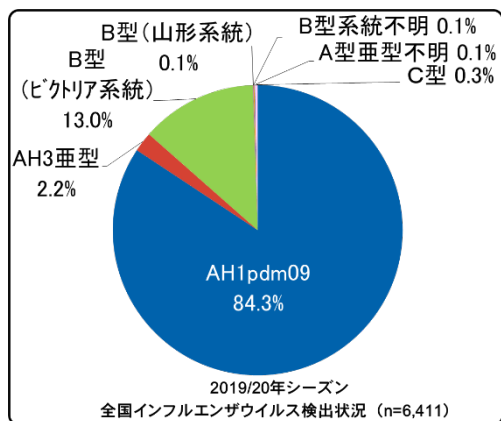
【2021/22年シーズン】



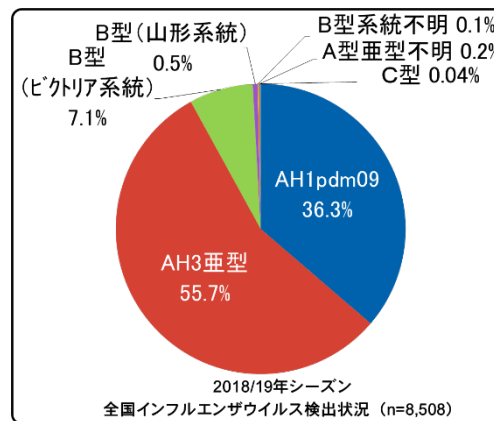
【2020/21年シーズン】



【2019/20年シーズン】

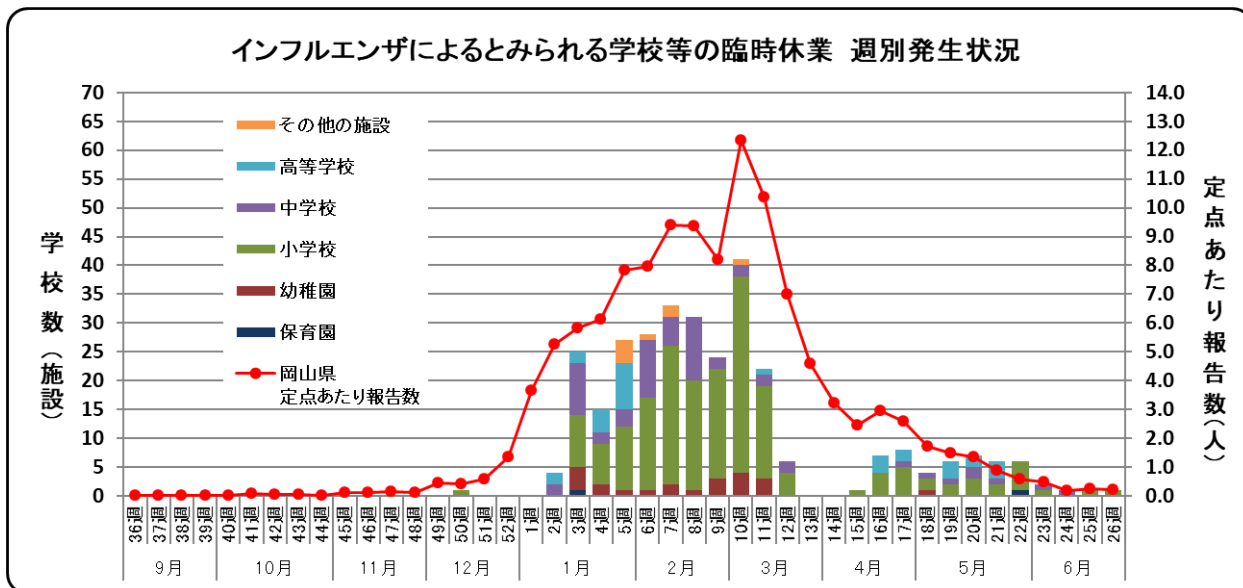


【2018/19年シーズン】



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

今シーズンのうち、2023年7月2日までのインフルエンザによるとみられる臨時休業は307施設で、2019/20年シーズン(555施設)以来3シーズンぶりに発生がありました。施設別では、保育園2施設、幼稚園22施設、小学校187施設、中学校58施設、高等学校30施設、その他8施設でした。初発は2022年12月12日で、2019/20年シーズン(9月30日)よりも遅い時期の報告となり、今シーズンのピークには1週間に41施設の報告がありました。



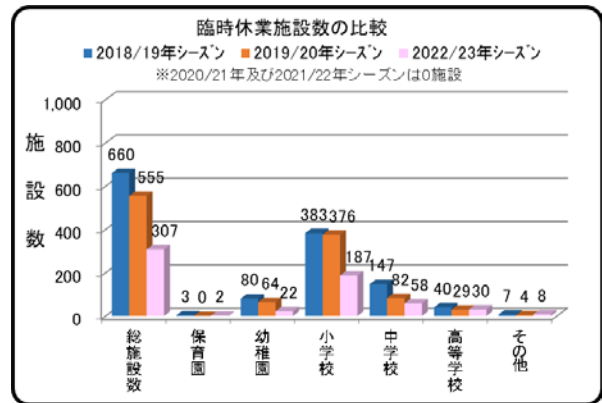
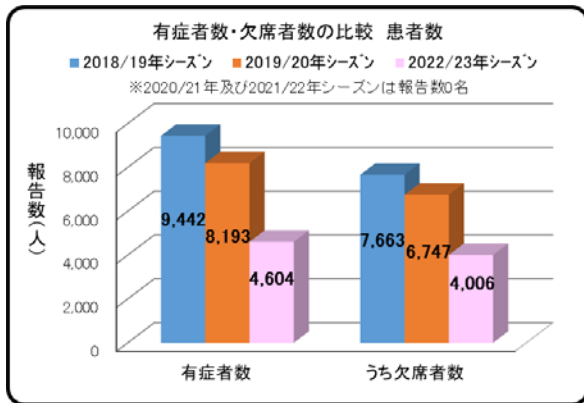
1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

*地域名は、保健所管轄地域を表しています

地域名*	有症者数	うち欠席者数	施設数合計	休園・休校	学年閉鎖	学級閉鎖	初発年月日
岡山県全体	4,604	4,006	307	6	60	241	R4.12.12
岡山市	1,935	1,710	120	1	8	111	R4.12.12
倉敷市	1,097	955	77	1	8	68	R5.1.16
備前地域	290	257	26	1	10	15	R5.1.23
備中地域	813	678	46	1	14	31	R5.1.17
備北地域	37	34	3	0	1	2	R5.2.13
真庭地域	239	213	15	2	8	5	R5.3.6
美作地域	193	159	20	0	11	9	R5.1.17

2) 臨時休業施設数の内訳 累計:307 施設

	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	2	22	187	58	30	8



5. インフルエンザによる入院患者報告数(県内基幹定点 5医療機関による報告)

今シーズンのうち、2023年7月2日までのインフルエンザによる入院患者数は、32名であり、2019/20年シーズン(136名)以来3シーズンぶりに10名以上となりました(2020/21年シーズン2名、2021/2022年シーズン1名)が、例年の流行シーズンに比べ、少数に留まりました。週別では、第2週(1/9～1/15)に入院患者数が今シーズン最多の5名となりました。今シーズンの70歳以上の入院患者数は、3名であり、入院患者数全体の9%を占めました。また、今シーズンのインフルエンザ脳症(第5類感染症の全数把握対象疾患である急性脳炎の届出において、病原体としてインフルエンザウイルスの記載があるもの)の報告は、岡山県では今シーズンは2名(2017/18年シーズン:4名、2018/19年シーズン:3名、2019/20年シーズン:6名、2020/21年シーズン:0名、2021/22年シーズン:0名)と、例年の流行シーズンと比較してやや少ない報告数でした。全国では、インフルエンザ脳症の報告は36例の報告があり、例年の流行シーズンと比較して少ない報告数でした(2018/19年シーズン:231名、2019/20年シーズン:255名、2020/21年シーズン:0名、2021/22年シーズン:1名)。

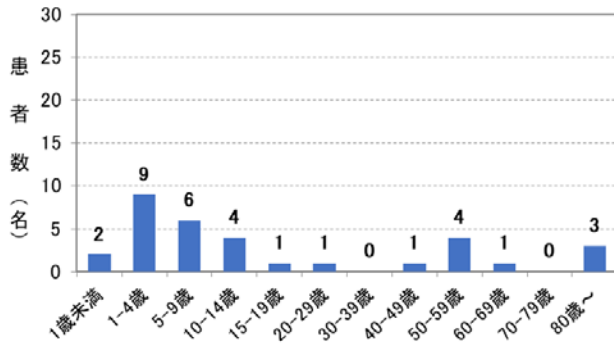
岡山県では今シーズンのインフルエンザ脳症はすべてインフルエンザA型を病原体とするものであり、全国においても、インフルエンザA型を病原体とするものが86%を占めていました。

【2022/23年シーズン(2022年9月5日～2023年7月2日)までの入院した患者の累計数】

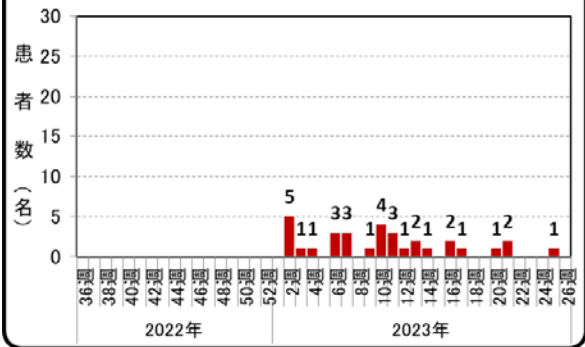
年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	2	9	6	4	1	1		1	4	1		3	32
ICU入室									1				1
人工呼吸器の利用													
頭部CT検査(予定含)									1				1
頭部MRI検査(予定含)		4	4	1									9
脳波検査(予定含)		1	1										2
いずれにも該当せず	2	5	2	3	1	1		1	2	1		3	21

* 重複あり

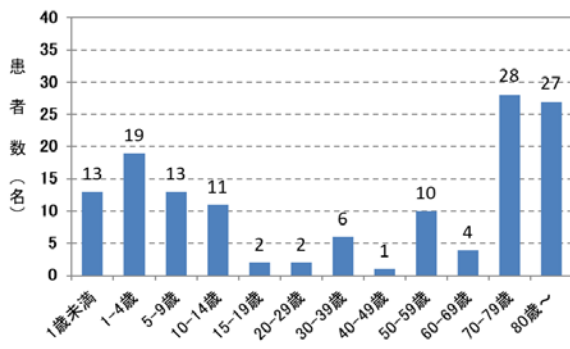
2022/23年シーズン 年齢別入院患者数



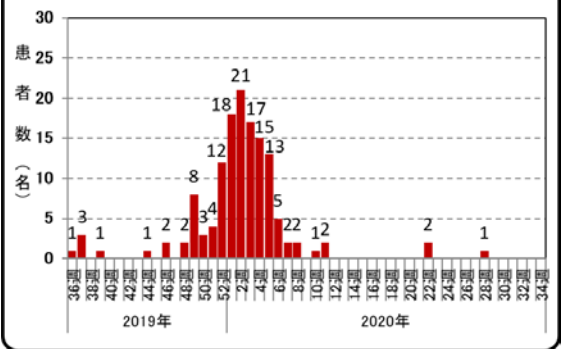
2022/23年シーズン 週別入院患者数の推移



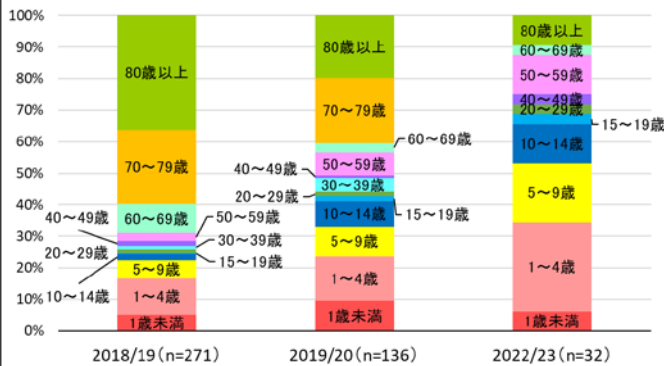
2019/20年シーズン 年齢別入院患者数



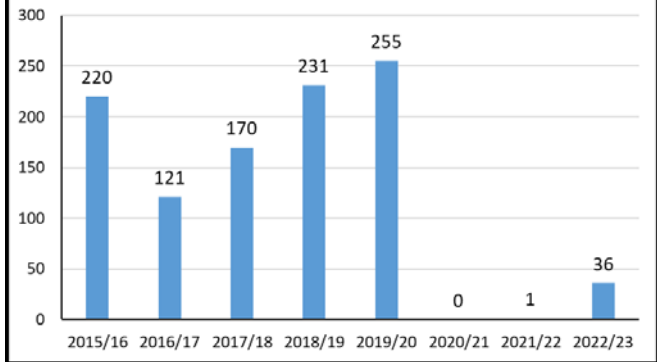
2019/20年シーズン 週別入院患者数の推移



インフルエンザによる入院患者の年齢階級別比較



シーズン別インフルエンザ脳症報告数推移(全国)



保健所別報告患者数 2023年 26週(定点把握)

(2023/06/26～2023/07/02)

2023年7月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	19	0.23	2	0.09	4	0.25	-	-	10	0.83	-	-	-	-	3	0.30
RSウイルス感染症	100	1.85	35	2.50	32	2.91	5	0.50	19	2.71	2	0.50	-	-	7	1.17
咽頭結膜熱	19	0.35	4	0.29	7	0.64	-	-	1	0.14	-	-	-	-	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	0.72	23	1.64	5	0.45	2	0.20	3	0.43	-	-	2	1.00	4	0.67
感染性胃腸炎	239	4.43	69	4.93	36	3.27	64	6.40	17	2.43	5	1.25	3	1.50	45	7.50
水痘	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	108	2.00	33	2.36	29	2.64	16	1.60	25	3.57	-	-	-	-	5	0.83
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	15	0.28	3	0.21	3	0.27	3	0.30	3	0.43	1	0.25	1	0.50	1	0.17
ヘルパンギーナ	234	4.33	85	6.07	41	3.73	11	1.10	29	4.14	27	6.75	1	0.50	40	6.67
流行性耳下腺炎	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	2	0.40	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2023年 26週(発生レベル設定疾患)

(2023/06/26～2023/07/02)

2023年7月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	19	0.23	2	0.09	4	0.25	-	-	10	0.83	-	-	-	-	3	0.30
咽頭結膜熱	19	0.35	4	0.29	7	0.64	-	-	1	0.14	-	-	-	-	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	0.72	23	1.64	5	0.45	2	0.20	3	0.43	-	-	2	1.00	4	0.67
感染性胃腸炎	239	4.43	69	4.93	36	3.27	64	6.40	17	2.43	5	1.25	3	1.50	45	7.50
水痘	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	108	2.00	33	2.36	29	2.64	16	1.60	25	3.57	-	-	-	-	5	0.83
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	234	4.33	85	6.07	41	3.73	11	1.10	29	4.14	27	6.75	1	0.50	40	6.67
流行性耳下腺炎	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2023年 第26週 2023/06/26～2023/07/02)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	19	-	-	2	1	-	1	1	1	2	5	-	1	-	-	1	2	-	1	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	100	17	26	31	14	6	6	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	19	-	1	5	5	2	2	1	-	1	1	-	-	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	-	-	-	2	3	5	7	4	9	1	2	5	-	1
感染性胃腸炎	239	1	19	34	29	22	23	19	10	9	11	9	26	6	21
水痘	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
手足口病	108	5	10	30	26	13	11	3	5	-	-	1	-	1	3
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	15	-	4	9	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	234	4	12	45	36	43	41	25	8	7	6	3	2	1	1
流行性耳下腺炎	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

保健所別

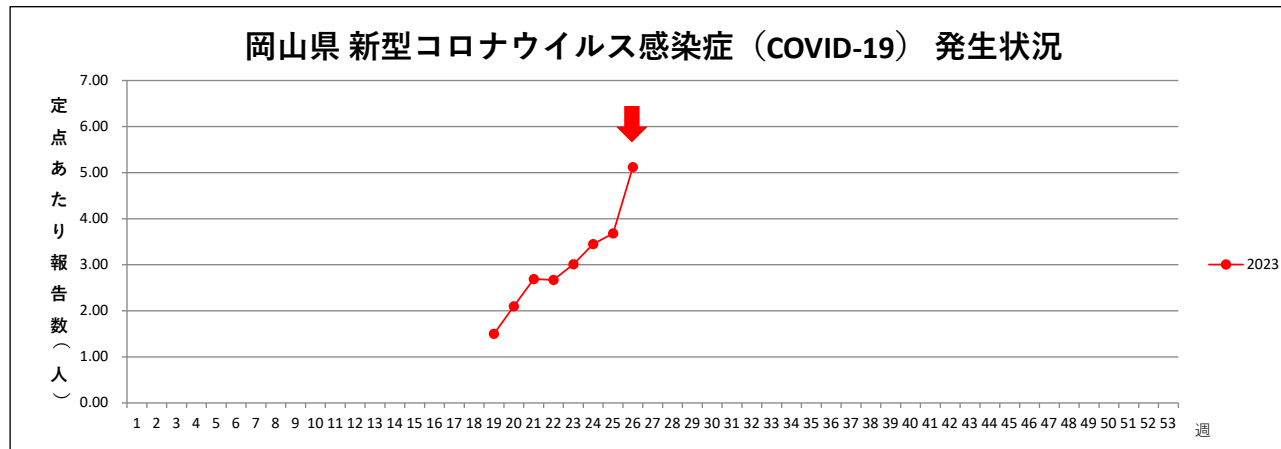
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	430	5.12	46	2.09	134	8.38	63	4.20	94	7.83	41	6.83	3	1.00	49	4.90

(- : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	430	5	6	3	4	1	1	3	2	6	6	4	31	27	56	49	49	53	49	44	31

(- : 0)



全数把握 感染症患者発生状況

2023年 26週

分類	疾病名	2023			疾病名	2023			疾病名	2023		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	4	108	246	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	7	30	66
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	エムポックス ※2	-	-	-	黄熱	-	-	-
	オウム病	-	1	1	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-
	キャサナル森林病	-	-	-	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	3	4
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	4
	デング熱	-	-	3	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	1	2	9	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	2
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	23	47
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	1	6	10	ウイルス性肝炎	-	3	1	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ※2	1	10
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	1	-	急性脳炎	-	6	10	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	-	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	5	後天性免疫不全症候群	-	2	6
ジアルジア症		-	1	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	5	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-
侵襲性肺炎球菌感染症		1	11	22	水痘(入院例に限る。)	-	4	4	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		4	132	197	播種性クリプトコックス症	-	-	3	破傷風	-	-	3
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	1	百日咳	-	15	17
風しん		-	-	1	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-
※1	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	-	85,871	392,782		-	-	-		-	-	-

※1 新型インフルエンザ等感染症として2023年5月7日までに届出された患者数

※2 2023年5月26日付けで、以下の疾病の名称が変更になりました。

「サル痘」 → 「エムポックス」

「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」 → 「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」

